

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域に囲まれた環境の中で生活する事により社会的孤立感の解消及び地域の中での役割を得て充実ある生活が送れるよう理念を掲げている。</p>	<p>地域の小学生の見守り隊を老人クラブの方々と一緒に行なっている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を玄関、スタッフルームに掲げ申し送りの際に唱和している。理念の意味を全職員が共有し、ミーティング等を活用しながら実践に向け日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>推進会議で理念について話し合いを持ち、行政、ご家族、地域の方々にも理解していただいている。定期的に広報誌を、ご家族に配布し、地域には回覧でまわして実践内容を伝えている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホーム前の公園で野球をしている中学生や、畑仕事、散歩をしている近所の方々と気軽に挨拶や会話を交わせる関係が築けている。畑の作り方等教えてもらっている。</p>	<p>広報誌でも気軽にお茶を飲みに来て欲しいと呼びかけ、日常の会話でも気軽に立ち寄っていただける様伝えている。行事の際には近所の方が多数来所されている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として、地域行事に参加している。老人クラブで行なっている学童帰宅時の見守り隊にも、積極的に参加している。老人クラブの定例会には毎月参加し、親睦を深めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	これから益々増えていく認知症に対し理解してもらいたく、認知症についての勉強会を行い情報交換をし、地域で支えあえる地域を築いていけるよう取り組んでいる。毎月、クリーン作戦として事業所でゴミ拾いを実施している。学童の見守り隊としても参加している。	○	地域全体が、認知症患者、高齢者を温かく見守っていけるような環境を作って行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義、目的を全職員が理解した上で自己評価に取り組んでいる。改善項目は、ミーティング等で話し合い、改善に向け努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々のケアに対しての取り組み、状況等について話し合いをし思いや意見等交わしている。話し合いで出た内容は、ミーティングで職員に周知しサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護、地域福祉権利擁護、成年後見制度等で市町村と連携をとっている。入居者が安心して生活できるよう、行政のいろいろな課とも連携をとり質の向上に努めている。		入居者が安心して生活できる様必要に応じて、行き来している。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見人制度について内部研修をし全職員が理解をしている。入居者個々に合わせ、必要な場合には関係者と話し合いを持ち、利用へと支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について内部研修をし、全職員が理解をし共通認識をしている。防止をすることはもちろん、見過ごさないよう、発見した場合の対処方法等徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、起こりうるリスクを時間をかけて説明している。医療連携体制加算に対しても同様、看取りに対しても共通認識できるように説明をしている。不安や、疑問は契約時以外にも随時伺い、解消できるよう対応している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の日常の会話や表情から受け止め、解決に向け迅速に対応している。行政の介護相談員の来所も受け入れ、相談できる環境を提供している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に広報で日常の様子を伝えていくと共に、面会時個々に伝えていく。遠方のご家族に対しては電話にて伝えていく。健康状態については個々に報告している。金銭管理は毎月、ご家族、生活支援員に報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や家族アンケートにて意見交換の場を持っている。ホーム内には苦情投書箱を設置している他、苦情第三者委員を設置している。面会時も話をする時間を持ち、意見等伺っている。意見等はミーティング等で話し合い、反映させている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング時や、個別面談時に意見や提案を聞いている他、日頃のコミュニケーションを大切に、考えや意見を把握するよう努めている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は通常のシフトに入っておらず、柔軟な対応ができるようにしている。緊急時は、翌日の勤務に支障のないよう勤務調整をし、人員確保をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット毎に職員配置をしているが、合同行事を頻繁に行なう等で入居者と職員は馴染みの関係ができていく。新しい職員が入った場合には、自己紹介をし入居者からユニットの中身を教えてもらうよう環境を作ることを心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階に応じた内部研修を行なっている。外部研修にも、積極的に参加している。参加した職員は、ミーティングにて報告をし全職員に周知している。介護トレーナー制度を設け、トレーナーの育成にも努め、新人教育にも活かしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協会へ加入し、定期的に意見交換の場を持っている。年数回交換研修を行なっている他、全職員対象に地域のGHとの情報交換会の場を持ち、サービスの向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個別面談で、悩みやストレス、人間関係を把握する他、日頃のコミュニケーションを大切にしている。親睦を深められるよう、場を設け気分転換できる環境を作っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の自己査定を行っている、個々に目標をもってもらい個別面談にて目標に近づけるよう、向上心を持って働けるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談があった時点で、本人と面会し、心身状態や困っている事や不安な事、求めている事等を把握する。職員が本人の思いや状況を受け止め、本人にも職員を受け入れてもらえるよう努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談があった時点で、ご家族と面会し困っている事、不安な事、求めている事、苦労等を時間をかけて聞いている。家族の思いを受けとめた後、グループホームでの出来ること、出来ないことを話し合っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の思いや現状を把握し、ケアマネ、関係者等と連携をとりながら、必要なサービスが利用できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にグループホームに来れる状況であれば、来て頂く。職員は事前に本人と会いコミュニケーションをとっている。入居後は、本人がグループホームに馴染むまで、ご家族に足を運んで頂き、安心して生活できる様ご家族の協力を頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	草取や花の手入れ、調理から後片付けまで日々教わる事が多くある。1つ1つの事を共に喜び分かち合っている。教えたり、学んだり、支えあう関係が出来ている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは対等な立場を維持しており、情報を共有しながら一緒に本人のために取組み、支え合う関係が出来ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	過去の本人とご家族の関係は十分理解しており、それを踏まえた上で本人との良い関係作りが出来る様、最大限に協力体制をとっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外泊、お墓参り、馴染みの美容院、馴染みの人達との交流は継続して出来ている。行事ではご家族も参加し、親睦を図っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士が自主的に関わり、支え合う関係が出来ている。居間の状態が継続出来る様、支援を続けていきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後は、面会に行っている。ご家族からの相談や悩み等も聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で都度意向を確認している。出来るだけ意向に沿える様援助している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしはほぼ把握出来ている。面会時にも必要な情報を得る様にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人の人間として生活パターン、心身状態、能力等は職員全員が総体的に把握出来ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見を聞きながら介護計画をたてている。又、スタッフ間では月2回のカンファレンスで意見をアイディアを出し介護計画に生かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なっている。変化が生じた場合は、随時本人、家族とも話し合いをし、カンファレンスで意見をまとめ介護計画につなげている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々に日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫した内容がフォーカスで記録している。情報は申し送りでも共有され、記録をもとにカンファレンスを開き、介護計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に応じ、併設のデイサービスの特浴や大浴場の利用をしている。ボランティア等の慰問時には相互交流を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の月1回の面会を楽しみにしている入居者もいる。警察、消防には情報提供書を交わし入居者が安心して暮らせるよう情報交換をしている。中学生の職場体験を受け入れており、入居者の楽しみの1つともなっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況や意向に応じて、出張床屋を利用している。又、町内の巡回図書館が1ヶ月に1度入居者の希望する図書の貸し出しをしてくれる。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加した事をきっかけに関係が強化された。困難事例等相談できる関係にあり、本人本位に支援できる関係にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や、医尼までのかかりつけ医が主治医となっている。通院は基本にご家族対応だが、状況に応じて職員が対応する事もある。家族対応時は、総合的な日常の様子を手紙とし、主治医に渡すことにより適切な診療を受けられている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>職員やご家族が認知症に関する悩みや、現状を相談できる認知症専門医がいる。ご家族に対しても気持ちを理解してくれている為、心の支えにもなっている様な気がする。認知症を地域の方々にも理解してもらえよう働きかけている為、相談しやすい環境を作ってもらっている。</p>		
45	<p>看護師を配置しており、日々の心身状態の把握をしていて、特変時にはスムーズに対応できている。看護師がいない時間帯でも、24時間連絡がとれる体制にあり、職員と看護師の連携もとれている。</p>		
46	<p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、お見舞いに行きながら回復状況の把握をしている。主治医とも相談しながら、対応可能な状況になったら早期に退院できる様支援している。</p>		
47	<p>終末期の入居者がおり、本人、ご家族、主治医、職員が一丸となり支援した事例がある。重度化した場合にもご家族、主治医、職員で頻繁に話し合いの場を持ち、方針を1つにし情報を共有しながら支援している。</p>		
48	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
49	<p>新しい場所へ移り住む際には、心身状態や、ケア内容、生活習慣や、気をつけること等を関係者と話し合い、又サマリーに記し情報交換を密にしている。本人が今まで継続していた生活が損なわれないよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症の内部研修を実施し、介護の基本として全職員が共通認識している。禁句マニュアルも意識しながら入居者と関わっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に希望を聞きながら自己決定出来るよう働きかけている。職員からの一方的な押し付けで行なう事はしていない。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	裁縫、草取り、花の手入れ、日光浴、入浴など常に1人1人のペースを尊重しながら行なっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみや、オシャレは本人の意向を聞きながら支援している。外出や行事の時も化粧、マニキュアなど意向を聞いてすすめている。希望する美容室も利用できている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、後片付けは1人1人の力に応じて一緒に楽しみながら行なっている。食事はメニューの紹介や満足度を会話の中で確認している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来る限り、本人の嗜好を取り入れる様支援している。毎日オロナミンCを飲みたいと希望する入居者もあり、以前の生活が今も継続されている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターン、本人の意向、自尊心を考慮した上で本人にとって最も良い方法を考え支援している。排泄が精神的負担にもならないよう配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴希望を確認しながら入浴をすすめている。希望に沿った入浴剤、民謡をかける等の支援もしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣は把握しており、体調も考慮しながらお昼寝したり、就寝出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人1人の役割、楽しみを把握した上で充実した気持ちで過ごせる様支援している。人の役に立ち満足したいという気持ちも充足している。ドライブや外食は楽しみと気分転換になっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の能力に応じた支援をしている。買物の時は自分でお金の支払をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に戸外に出られるよう支援している。外出やドライブもその1つである。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1人1人の要望を聞きながら実現出来る様、ご家族と相談しながらすすめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を聞きながら、電話をかけられるよう支援している。手紙を書く入居者もあり、個々に対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、仕事帰りや、ご家族の都合の良い時間に来て頂けるような声掛けをしている。訪問時はゆっくり会話出来る環境を配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を実施し職員全員が共通認識を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけていない。外出しようとしている時は、そっと声をかけ一緒に歩いている。近所の方も見守ってくれている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は入居者の行動の観察や、心身状態を把握するよう努め、常に所在の確認が出来ている。日中の様子を申し送りし、夜間帯は定時の巡視の他、個々の状況に合わせて安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の入居者の状況に合わせて、危険と思われる物は鍵のあるところで保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメントの内部研修をし全職員が共有認識をしている。ヒヤリハット、事故報告書が出た際には、職員全員で検討し再発防止に努めている。家族への報告もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AED講習会、救命救急の講習会に全職員が参加している。又、応急手当や、初期の対応、急変時の対応等はマニュアルと内部研修にて全職員が共通認識をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が、毎月火防点検をしている他、避難訓練、災害訓練を実施している。地域の方々と一緒に総合訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の入居者の状況に合わせて都度説明を行っている。状況の変化を早期にご家族に説明する事により、ご家族も理解してくれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化早期発見の為、個々のバイタル正常値を把握している。表情や、言動、様子の変化が見られた際には、バイタルチェックを行い、変化時の記録を細かくつけ、職員が共有している。看護師とも連携がとれており、状況により医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬剤情報書を個々に整理し、把握している。服薬時は個々の状況に合わせて対応し、きちんと服薬できているのかを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食後のトイレ誘導、繊維質を多く含んだ食事や乳製品の提供、散歩、適度に体を動かす等自然排便が出来るように取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの誘導で全入居者が習慣化している。口の中を見られるという羞恥心に配慮しつつ、肺炎予防も含め磨き残しの確認と、個々の状況に応じて歯磨の手伝いをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取状況や、水分量を把握し記載し職員が情報を共有し、一日の必要量は確保出来るようにしている。栄養バランスも定期的に管理栄養士に確認してもらっている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルで共通認識をしている他、定期的に内部研修をし予防に努めている。ご家族の同意を得て、入居者、職員がインフルエンザ予防接種を受けている。うがい、手洗いも入居者、職員共に徹底できている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具は使用后、毎回消毒をする事としている。食材は、なるべく買いだめしない様にしている。ご家族からの差し入れも、居室内で保管しない様、ご家族の協力も得られており、食中毒の予防に努めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関から分かりやすいように、手作りの看板を掲示している。玄関まわりもスロープを取り付け安心、安全に出入り出来るようにしている。玄関周りは、季節の花で囲まれている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音がする事はなく、居間の日差しはブラインドでうまく調節されている。居間には食器戸棚や季節の花、廊下も季節の装飾を工夫している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合った入居者同士は並んで座り、一人になりたい気分の時は奥のソファで自分の時間を過ごしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	都度本人、ご家族と意向を聞きながらすすめている。1人1人の意向に沿った使い慣れた物が置かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行なっている。臭いの元となる物はできるだけ早く処理している。消臭剤等も必要に応じて使用している。温度調節はこまめに行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両側手すり、浴室の縦、横手すり、浴槽内の椅子、ボード、トイレのL字手すり等の工夫により安全に生活出来ている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員間の話し合いの中で、どうしたら混乱、失敗をしないで過ごせるかの工夫が色々されている。実施後の評価もしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダの花壇、中庭の花壇等入居者が自由に活動している。皆の花壇だからと率先して草取りに励む入居者もいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①地域の方々に認知症の理解をして頂きたく、勉強会等開催している。地域全体で認知症の方をサポートできる環境作りを目指している。
- ②入居者の人間としての尊厳を大切にし、本人のペースに合わせて自立に向けた支援をしている。
- ③職員全員が認知症を理解し、入居者本位の介護に生かせるよう内部研修や外部研修に積極的に参加している。